



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
題字 井 戸 知 事

訓練で
確かな信頼
積み重ね



「三木市消防大会での一斉放水」

令和三年新春メッセージ 危機を乗り越え、 ポストコロナの新時代に挑む

井戸敏二



新年あけましておめでとう
ございます。

昨年は、新型コロナウイルスとの戦いの年でした。しかし、未だ終息にはほど遠い状況です。

一方、コロナ禍は社会を変革する契機ともなりました。県民とともにこの危機を乗り越え、地域創生やデジタル化に力強く取り組み、ポストコロナ社会を先導する活力あふれる兵庫をめざします。令和三年は本格的に歩みを進める年とします。

第一は、新型コロナウイルス対策の充実。自宅療養セロを堅持しつつ、入院病床や宿泊療養施設を十分に確保します。マスク着用の徹底、検温の実施、外出抑制、感染リスクの高い施設の利用を控えるなど、家庭、職場、施設へウイルスを持ち込まない地道な取組が何より大切です。一人ひとりの行動が大切な家族や友人、仲間を守ることにつながります。是非、ご協力をお願いします。

第二は、兵庫の元気回復。経済の下支えを図りつつ、スタートアップ拠点を活用した起業・創業の支援、新たなサプライチェーンの構築を後押しします。兵庫と東京を専用回線で結び、情報ネットワークにより東京圏からの企業誘致も促進します。農林水産業のスマート化も急務です。都市部から地方へ“の潮流を捉え、兵庫への呼び込みを図ります。

第三は、安全安心の基盤強化。コロナ禍でも自然災害は待ってくれません。地震・風水害に備える安全な県土づくりを進めます。県民が安心して暮らせる福祉の充実も強化します。

第四は、ポストコロナも見据えた兵庫の未来づくり。「二〇三〇年の展望」を具体化する取組を進めるとともに、二〇五〇年頃を目標年次とする新ビジョンの策定に向けた検討を加速させます。

我々は、戦災、様々な自然災害など、幾度もの危機を乗り越えてきました。阪神・淡路大震災もそうでした。再び、県民の叡智を結集して、兵庫の新時代をともに築き上げるため、挑戦していこうではありませんか。

コロナ禍を
乗り越えていく 県民の
ひたむきな歩み
夢をめざして

新年のあいさつ

公益財団法人 兵庫県消防協会

会長 岸谷 義雄



令和三年の新春にあたり、謹んでお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中、例年とは異なる新年ではあります。消防団員、消防職員並びにご家族の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より、当協会の運営や活動に対し、格別のご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。日々厳しい訓練を重ねられ、地域住民の生命と暮らしを守るため献身的にご尽力されておられ

ますことに對しまして、心より敬意を表するとともに、新しい年を迎え、消防人としての誇りを胸に、地域を守る決意を新たにされていることと存じます。

さて、昨年より、新型コロナウイルス感染症拡大により、これまでに経験したことのない困難に直面しています。そんな中、昨年七月に九州及び東北地方を中心に甚大な被害をもたらした豪雨は、コロナ禍の中での初めての大規模災害となり、自然災害と感染症との「複合災害」に備えること

こうした中、消防団も、火災だけでなく、様々な災害に対処する地域防災力の中核的な存在として欠くことができないものとなっております。我々はより一層強固な消防・防災体制の構築に努めていかなければなりません。消防職員・消防団員の皆様におかれては、県民の安全・安心の確保のため、今後とも心身の鍛錬、技術の錬成に努められ、ご精励いただきますようお願い申し上げます。

当協会といたしましても、消防の持つ役割の重要性を深く認識し、地域の安全・安心の確保のため各種事業を積極的に推進しているところでございます。本年も引き続き消防団の活性化を図り、社会環境の変化に即した消防団の充実に傾注してまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましては、なお一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新型コロナウイルスの収束と、今年一年が災害のない平穏な年であることを祈願し、県下の消防団員、消防職員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 の 辞

消防庁長官

横田 真二

令和三年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係団体業務などに御尽力いただいております。心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルスが感染拡大する中、救急隊員をはじめ消防職団員の皆様には、感染の危険を顧みず最前線で御尽力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

昨年は、七月豪雨や台風による自然災害に見舞われ、多くの方々が犠牲になりました。お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

災害現場においては、被災地の消防本部や地元消防団はもとより、被災状況により県内消防応援隊や緊急消防援助隊も総力を挙げて救急・救助活動等に当たっていただき、多くの人命を救助していただきました。改めて皆さんの御活躍・御尽力に敬意を表します。

すとともに、心から御礼申し上げます。年々激しさを増す風水害や、今後発生が危惧される首都直下地震、南海トラフ地震の大規模災害に備え、消防庁では、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化をはじめ、地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の更なる充実強化、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進、防災情報の伝達体制の整備など、消防防災行政の一層

の推進に取り組んでまいります。とりわけ、消防団員の処遇改善については、団員の報酬や出動手当の額の引上げを要請するとともに、検討会を立ち上げ、精力的に取り組んでまいります。

また、消防防災分野におけるデジタル化・スマート化を進め、大規模災害時における情報収集の効率化や各種手続きの電子化を図ることで、自治体の消防防災業務の合理化・効率化及び国民の皆様の各種申請の簡素化を推し進め

てまいります。

「新たな災害環境」への対応

―新春のごあいさつ―

公益財団法人 日本消防協会

会長

秋本 敏文

明けましておめでとうございます。

火災・自然災害が相次ぐだけでなく新型コロナウイルス感染症が大きな問題となるなど、大変ご苦労が多いなかの新年です。心の中は穏やかでないものがございますが、そのようななか、兵庫県消防の皆様がそれぞれの地域の安全のために尽力いただいていることに、深く感謝し、敬意を表します。

私は最近、「新たな災害環境」という言葉を使わせてい

ただ、ことあるのですが、皆様ご承知のように、まず災害の様相が変化してまいりました。近年、フェーン現象下の火災等のほか、台風や局地的な豪雨が、これまでの常識を大きく超える大規模なものになっていきます。また、人口動向、地域社会の状況等社会環境にも変化が見られます。

消防はこうした状況変化、いわば「新たな災害環境」への変化を正面から受けとめながら、どのようなことを考え、実行していくべきか、このこ

そこでは、行政関係の方々には、中広い消防防災関係者、これは、行政関係の方々には、勿論、学者研究者、関係メーカー、情報関係者、各種企業・団体など幅広い関係の方々の、いわば総参加、総連携、総活躍が必要でしょう。そのためにはこのような皆様方の連携協力推進の場も必要でしょう。

そして、災害発生現場の実情に応じ、地域の皆様のそれ



新年のご挨拶

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

公益財団法人 兵庫県消防協会
令和三年元旦

総 裁 井 戸 敏 三
副 総 裁 金 澤 和 夫

会 長 岸 谷 義 雄
副 会 長 採 田 芳 博

山 田 君 一 信 嘉
西 岡 安 雄
荻 野 克 己
細 川 知 大



令和二年 兵庫県功労者 表彰式挙行

令和二年一月一八日(水)一四時から、兵庫県公館において、令和二年兵庫県功労者表彰が、感染症対策を徹底した上、挙行されました。表彰は、二三の功労分野にわたり二三二名の方が受賞されました。

そのうち、消防功労では消防関係者六名が受賞され、消防功労の受賞者を代表し、太子町消防団の田中団長が井戸知事から表彰状を授与されました。

なお、受賞者の方々は次のとおりです。(敬称略)



受章者の皆さま

◎消防関係

- | | |
|---------------|-------|
| 前神戸市消防正監 | 竹田 雅洋 |
| 前神戸市長田消防団 団 長 | 外浦 正吉 |
| 神戸市須磨消防団 団 長 | 鷺尾 庄司 |
| 前豊岡市但東消防団 団 長 | 桑田 均 |
| 太子町消防団 団 長 | 田中 繁幸 |
| 佐用町消防団 団 長 | 矢内 正敏 |



代表受領 田中繁幸団長



井戸知事 祝辞

令和二年 秋の叙勲(消防関係) 一四名が受章

令和二年秋の叙勲が一月三日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で六二二名、うち兵庫県では、元消防吏員・元消防団員合わせて一四名が叙勲の栄に浴されました。

受賞された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、幾多の災害に對して、率先垂範して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。また、消防力の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されたこと等、これまでの抜群の功績により、その榮譽に輝かれました。

なお、全国の消防関係受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。

- 〈全国消防関係受章者数〉
- | | |
|-------|------|
| 瑞宝小綬章 | 二九名 |
| 旭日双光章 | 五名 |
| 瑞宝双光章 | 七四名 |
| 瑞宝単光章 | 五一四名 |
| 計 | 六二二名 |

兵庫県下受章者(消防関係)

(敬称略)

◎瑞宝小綬章

- 消防正監 藤田 雄三

◎瑞宝双光章

- 元神戸市北消防団 団 長 小西 元八

- 元神戸市中央消防団 団 長 土屋 雄司

- 元豊岡市竹野消防団 団 長 仲治 義信

- 元宝塚市消防団 団 長 福井 仁

◎瑞宝単光章

- 元姫路市姫路東消防団 分団長 片山 隆昌

- 元姫路市飾磨消防団 分団長 小西 治

- 元尼崎市消防団 分団長 川端 征二

- 元洲本市消防団 分団長 志保 勝則

- 元豊岡市豊岡消防団 団 長 河口 清

- 元加古川市消防団 副団長 橋本 透

- 元川西市消防団 分団長 加藤 万豊

- 元朝来市消防団 副団長 木村 敏彦

- 元朝来市消防団 副団長 吉成 勝

第35回 危険業務従事者叙勲が 令和2年11月3日に発令

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。受章者は、全国で瑞宝双光章二九七名、瑞宝単光章三三四名、計六三一名、うち兵庫県関係では、二二名の消防職員が受章されました。(敬称略)

兵庫県下受章者(消防関係)

◎瑞宝双光章

- 元神戸市 消防正監 中地 弘幸

- 元神戸市 消防司令長 木下 茂信

- 元姫路市 消防司令長 表 秀行

- 元姫路市 消防司令長 柴田 博司

◎瑞宝単光章

- 元神戸市 消防正監 林 利幸

- 元神戸市 消防司令長 瓦谷三十美

- 元姫路市 消防司令長 中村 隆志

- 元尼崎市 消防司令 屋野 正人

- 元尼崎市 消防司令 山田 實

- 元西宮市 消防司令長 勝本 雄二

- 元西宮市 消防司令 青山 幸夫

- 元加古川市 消防司令長 荻野 篤彦

- 元加古川市 消防司令長 北川 誠

- 元川西市 消防司令 梶尾 松治

- 元北はりま消防組合 消防司令長 岩崎 一彦

- 元南但広域行政事務組合 消防指令 佐藤清四郎





《兵庫県下受章者(消防功績)》
◎藍綬褒章
神戸市須磨消防団
団 長 鷺尾 庄司
姫路市家島町消防団
団 長 中村 國彦
伊丹市消防団
副団長 久保 善一

消防団員として永年にわた
り消防防災活動に献身的に努
力し、消防の発展に大きく授
与される藍綬褒章は全国で九
七名、うち兵庫県では三名が
受章の榮譽に輝きました。

令和 2 年秋の褒章が 11月 3 日に発令

がんばってます、 女性消防団員

『防災活動には、女性目線で』

淡路市消防団 しずかファイヤーズ

減少傾向にある消防団員は、そ
れまで男性のみが所属していまし
た。

災害弱者を守る役割に女性なら
ではの立場や目線を持つことに
よって消防団活動の幅が広がる
との期待により、平成二六年一二
月に女性団員を募集。

当初一〇名程度の想定を大幅に
超える多数の応募の結果、平成二
七年四月、二〇歳代〜六〇歳代の
二六名(当時)を任命、女性消防
団員が発足しました。

多くの女性消防団員の加入が高
く評価され、平成二七年七月に総
務大臣から感謝状が淡路市消防団
へ、平成三〇年一一月には県内で
活躍する女性をたたえる「ひよう
ご女性未来・郷賞」に選ばれまし
た。

現在は本部所属となる女性消防
隊「しずかファイヤーズ」として
隊員四一名が在籍。

火災予防運動、高齢者住宅への
防火訪問、応急手当普及員一六名
を養成しての応急手当講座などの
活動や災害時の後方支援に備えて
います。

また、最近では「災害時こそ女
子力で乗り切っていこう!」をコ
ンセプトに防災や社会貢献を専門
に学ぶ女子学生を中心に活動して
いる神戸学院大学のサークル「防
災女子」と女性目線のやってみた
くなる防災についての意見交換な
ども行っています。

今後とも様々な防災事業に対して、
女性の持つ繊細さなどを通じて市
民の皆様と一緒に防災意識の高揚
に取り組んでまいります。



防災女子 (神戸学院大学意見交換会)



初出式

われら若手消防団員

～女性消防団員
として～



猪名川町消防団
女性消防分団
(LAMP S)
高岡 葵

私は平成三〇年四月に猪名
川町消防団女性消防分団に入
団しました。母から「猪名川
町が女性の消防団員を募集し
てるよ。」と教えられ、父が
消防団員であったこともあり、
入団を決めました。

猪名川町消防団の女性消防
分団(LAMP S)ランプス
は、平成二八年に発足したば
かりで、皆さんとうまく馴染
めるか不安もありましたが、
諸先輩方の優しいサポートと
同時期に入団した女性団員が
いてくれたおかげで、すぐに
打ち解けることができました。

女性消防分団員の主な活動

は、火災予防運
動や年末火災特
別警戒での広報
活動、地域の防
災訓練での防火
指導などです。

入団二年目に
は、出初式での
司会にも携わり
ました。

私が緊張して
いるなか、消防
団員の皆さんが
胸を張って観閲
行進を行う姿、
機敏に一斉放水
を行う姿を見て、
私自身も町民と
して安心感を抱



消防出初式観閲行進の様子

きました。災害活動だけでは
なく、普段から町民の皆様に
安心して頂けるように務める
ことも消防団の仕事の一つで
あると感じました。

私たち女性消防分団員が災
害出動で町民の生命、身体、
財産を守るということは難し
いですが、火災予防の広報活
動や防災訓練での防火指導を
行うことで、町民の皆様の防
災意識を高め、減災に繋がっ
ていくと考えています。これ
からも一人ひとりに災害の恐
ろしさや防災意識の大切さを
伝えていきたいと思っています。

わが町の団長さん

「海と山に囲まれ、
震災から復興した
街を守り続ける」

神戸市東灘消防団

池田 徹



神戸市東灘区は神戸市の東端に位置し、アクセスの良さと、海と山に囲まれた自然あふれる環境が好まれ、古くから良好な住宅地として発展してきました。この東灘区を災害から守る神戸市東灘消防団の団長に、池田団長は令和二年四月に就任しました。

団長は昭和五十九年の入団以来、地域防災の発展に尽力され、平成七年の阪神・淡路大震災では、瓦礫からの救助を主として活動し、その勇敢な姿は今でも記憶に残っています。避難所では、団長の兄が行う炊き出しを率先して手伝うなど、その郷土愛の精神に地域の方からの感謝が絶えることはありませんでした。

また、東灘区では、伝統行事である地車（だんじり）まつりが毎年五月に開催され、そのまつりを安全に開催するため、警察と消防団が協力して団長を中心とした警備により、事故の無いまつりが開催されています。

団長は、今後発生が危惧される南海トラフ地震や巨大台

風などの自然災害に備え、災害が発生した際は団員間で円滑な活動ができるよう、地車の活気を消防団活動に活かし、防災訓練に全力で取り組んでいく強い意気込みです。

今後も、海と山に囲まれ、環境や交通の利便性に恵まれ、震災から復興した東灘区の街を災害から守り続けるため、我々団員一同、池田団長を支えていく所存です。

「ハートの町で
愛される団長」

神河町消防団

平岡 靖浩



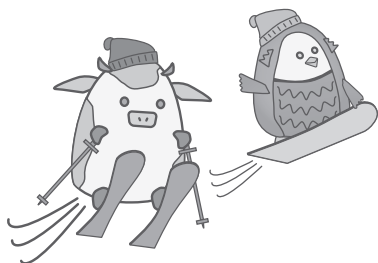
神河町は、兵庫県のほぼ中央に位置するハート形の町です。美しいススキの高原「砥峰高原」、清流が流れ絶えることなく湧き出る名水スポット「越知川名水街道」、日本遺産に認定された播磨と但馬を結ぶ鉱石の道「銀の馬車道」、アルパカなどの動物と触れ合える「農村公園ヨードルの森」や新しいスキー場「峰山高原リゾート ホワイトピーク」など、四季を通じて自然を楽しむことができる町です。

神河町消防団は、平成一七年十一月に旧神崎町と旧大河内町が合併して誕生しました。

現在、七分団二七部、団員数五九五名で構成され、町民の安心安全を守る為、日々活動しています。

平岡団長は、平成一一年四月に、旧大河内町消防団に入団され、平成二八年から副団長を経て、令和二年四月に団長に就任されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、度重なる行事の中止や、思うように訓練等が実施できない状況で、何かできることはあるか、常に前向きに考えておられます。九月に実施した教育訓練では、新たに本部役員になった副団長に、自ら礼式・規律を熱心に指導されておられました。日頃から、迅速かつ適確な指導を行い、時にはユーモアな一面も見せ、献身的な態度により、団員はもとより地域住民からも厚い信頼があります。年々、人口減少に伴い、若手の団員確保が困難な状況の中、町民からの消防団に対する期待は大きく、団員に求められる任務も複雑多様化傾向にあります。地域の幅広いニーズに応えられるように、将来を見据えた持続可能な消防団を目指し、日々努力されている団長です。



「地域の安全と
安心のために」

市川町消防団

堀岡 大介



兵庫県のほぼ中央に位置する市川町は、人口約一万一千人、面積八二・六七平方メートル、周囲を山に囲まれ、中央部には清流市川が流れる自然が豊かな町です。

令和二年四月一日に就任された堀岡団長は、地域の安全と安心のために本部及び二六分団、総勢四九三名の市川町消防団の先頭に立ち、災害発生時には沉着冷静な判断力と決断力で陣頭指揮に当たります。また、平時には消防団目標の「減災・防災意識の高いまちづくり」の実現に向け、地域住民や自主防災組織と連携した初期消火訓練や心肺蘇生訓練等の実施を奨励し、地域の防災力の向上に取り組まれています。

その堀岡団長を就任以来悩ましているのが新型コロナウイルス感染症です。平日夜や休日にはお子さんのスポーツクラブでの活動に奥さん共々参加される家族思いの堀岡団長は、消防団員が新型コロナウイルス感染症に感染すると家族にも影響が及ぶことを非常に心配されています。そのため、今年度の消防団活動では新型コロナウイルス感染症への感染対策を徹底すると共

に、感染予防のために非常に困難な決断を迫られる場面に何度も直面されました。中には苦渋の思いで下された決断も有られたと推察します。けれども、大局を見据えた堀岡団長の英断は、消防団員のみならず地域住民の理解や納得を得られるものでしょう。

「ひと まち 守る
福崎町消防団！」

福崎町消防団

松岡 希佐



福崎町は、兵庫県の中播磨地域の中心に位置し、市川中流の両岸にひろがり、豊かな自然と日本民俗学を確立し歴史に名を残す柳田國男生誕の地で歴史と文化が漂う魅力あふれるまちです。

福崎町消防団は、松岡団長以下六〇〇名、消防車両三四台をもって、地域の安全・安心のため活動しています。

松岡団長は、平成一三年に福崎町消防団に入団され、平成二一年に分団長となり、平成二四年には本団幹部に抜擢されました。以後、副支部長、支部長、副団長を歴任し、令和二年に団長に就任しました。

持ち前の行動力と冷静な判断力で、災害現場においては、適確な指揮をとるとともに、率先して活動にあたられています。

松岡団長は、「消防団員は家族の支えがあつてこそ。地域を守るとともに、家族を守るためにも、どんな時でも訓練と警戒を怠ってはならない。」

い。「という思いを強く持ち、常に真摯な姿勢で、何事にも焦らず、冷静に判断される指導力と統率力はすぐ抜けたものがあり、あらゆる災害現場訓練においてリーダーシップを発揮され、団員からの信頼は言い表せないほど厚いものがあります。

一方で、普段の団長の素顔は、明るくユーモアがあり、団長がいるだけでその場を和ませてくれます。また、普段は「希さん（まれさん）」と誰からも親しまれており、優しい性格で、何でも話しやすく、相談しやすい、雰囲気を持った存在でもあります。

松岡団長が就任されてからまもなく一年が経ちますが、これからも益々ご奮闘していただき、福崎町消防団を牽引し、「ひと まち 守る 福崎町消防団！」をモットーに、災害から町民の生命・財産を守るリーダーとしてのさらなる活躍が期待されています。





『コロナ禍における消防団活動』

明石市消防団

明石市は、東経一三五度の日本標準時子午線上にあり、東西一五・六キロメートル、南北九・四キロメートル、面積は四九・四二キロ平方メートルと東西に細長い形をしており、温暖な気候、風光明媚な地で、瀬戸内海からの恵みにより、海産物が豊富なまちとなっています。

明石市消防団は、昭和二二

年に発足し、町村の合併に伴い組織を改め、現在は八分団五〇班、一、〇四〇名体制で市内の消防警備についています。

当市は、気候が穏やかな地域ではありますが、平成七年の阪神・淡路大震災をはじめ、近年は大型化した台風の上陸や接近、また、平成二九年には市東部大蔵市場において大規模火災が発生するなど、さまざまな災害被害を受けてきました。

明石市消防団では、これらの災害に対し、動員力を活かした災害防除活動を行うとともに、平常時には訓練や警戒活動を実施し、地域防災力の充実強化に尽力してきました。

しかし、今年に入り、新型コロナウイルス感染症が発生、世界的に流行し、従来の消防団活動では感染リスクが高い業務があることから、さまざまな感染拡大防止対策を検討しました。



間隔をとっての訓練礼式

資機材の取扱訓練等は、分団や班単位の訓練へと規模を縮小しました。

○感染拡大防止対策をとった新入団員訓練

訓練の縮小により、各分団、各班では訓練方法を検討しました。

特にこれからの消防団の担い手である新入団員への訓練をどうするかが、大きな課題となりました。

当市の東方面を管轄する第一、第二分団では、感染拡大防止について検討を重ね、訓練中のマスク着用、訓練団員の間隔を広くとること及び短時間による訓練といった工夫を取り、一〇月に新入団員訓練を実施しました。

また、マニュアルの見直しも行い、長時間待機が想定される水防活動については、詰所の待機人数を制限し、自宅待機活用も新たな対応として整備しました。

定例的に取り組んでいる資機材点検や訓練は、従来、多くの団員で行っていましたが、必要最小限の人数へと変更しました。特に、訓練は、例年全班を召集し行っていた新入団員訓練、水防訓練及び救助



団員間の距離をとった水管延長訓練

『丹波市消防団です!』

丹波市消防団

丹波市消防団は平成一六年一月一日に旧氷上郡六町

(柏原町・氷上町・青垣町・春日町・山南町・市島町)が現状のまま統合し、団員定数二、八九八名で発足しました。

その後、丹波市消防審議会の答申のもと、組織改革や定数の改正を行い、平成二七年四月一日の第二次組織再編により条例定数一、七〇六名で構成しています。

丹波市消防団では、団員の技術力と士気向上のため、ポンプ操法大会の他、各地域単位の独自の訓練や研修会を実施しています。令和二年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、必要最小限度の活動に留めています。

これまでの活動の様子について、その一部を紹介します。



消防本部と合同訓練

丹波市消防本部と丹波市消防団で合同訓練を実施

消防団単独の訓練では経験できない山林火災を想定した訓練を丹波市消防本部と丹波市消防団の合同により実施しました。この訓練の実施により消防団員一人ひとりのポンプ等の操作技術の向上を図ることができました。

また、訓練で改めて消火活動の指揮や危険行為について確認し、今後の火災等有事の際に活かすことができるかと実感できました。



地域と連携して消火活動に取り組みます

自主防災組織と一緒に地域消防力を強化

火災の際、延焼を最小限に抑えるのが地域住民で組織する自主防災組織です。丹波市では消防団OBも加わり自主防災組織を形成し、身近なところの防災力強化に努めており、地域が一体となって消防力の強化を図っています。消防団は初期消火の必要性を広く理解していただくため、一緒に実地訓練を行い、火の特性と消火に関する知識を身に付け、有事の対応に備える活動を続けています。



これから消防団員になってくれるかな

中学校へ消防団について講演

市内の中学校の子供たちに消防団の活動について、お話をいただきたいと先生から依頼があり、消防団が日頃、どのような活動をしているのか講演を行いました。地域の子供たちに消火活動・水防活動など消防団の活動内容を知ってもらいたい機会になりました。



救急救命講習会に励んでいます

女性消防分団も頑張っています

小学校PTAや自治会が行う心肺蘇生法やAEDの使い方を学ぶ救急救命講習会で消防署員の補助をしています。講習会では、特に応急手当普及員の資格を持つ女性消防団員が中心となって活動します。また、地域毎に毎月一回、

女性消防分団の専用車両で火災予防の巡回放送を実施して火災予防の啓発に努めています。

さらに、イベントなどで住宅用火災報知器の設置や救急車の呼び方などの寸劇を行い、市民の方に防火等に関心をもちもらう啓発活動もしています。

編集後記

あけましておめでとうございます。

毎日寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍での新年となり、消防出初式の規模縮小などを余儀なくされている消防団もあるかと思いますが、皆様のおかげでは、決意新たに消防団活動へ向き合っておられることと存じます。

さて、今月号では各団体の代表者の年頭のあいさつを掲載しております。

また、三面・四面では、秋の叙勲等の記事掲載しております。受章者の皆様、誠にありがとうございます。

本年も引き続き「兵庫消防」のご愛読をよろしく願います。

